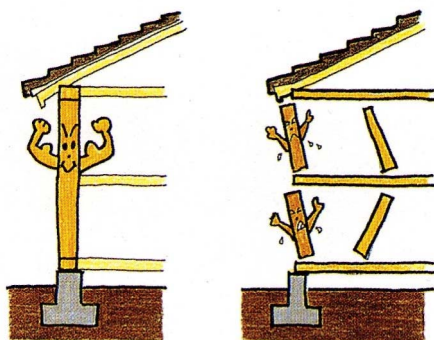


## 6 柱の太さ・配置

柱は、屋根や2階の床の重さを支え、土台や基礎に力を伝える大事な部材です。屋根の重さ、柱間隔等によって必要な太さが異なりますので、基準に合った太さの部材を使いましょう。

上階と下階で柱の位置がずれていると荷重が十分に伝わりません。柱にかかる荷重が均等になるように、平面的にもバランスよく配置し、上階、下階ともなるべく同じ位置に設けましょう。

また、建物の四隅の柱は通し柱にしてください。

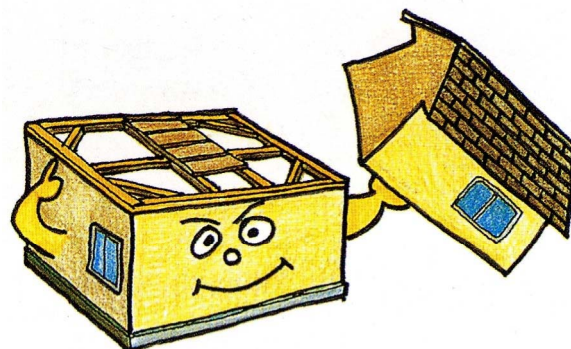


## 7 床組

床組の四隅には火打ち材（梁）を入れて、全体が歪まないようにしましょう。

床下地材として構造用合板等を張りつめると、建物を固めるのに大きな効果があります。

1辺が4m(2間)を超える大きな吹き抜けは、2階の床に大きな穴をあけることとなりますので、耐震上好ましくありません。



## 8 屋根・重さ

建物を耐震的にするには、建物の荷重を軽くすることが有効です。2階より平屋、重い屋根より軽い屋根の方が有利です。

特に木造住宅では、建物全体の重量のなかで屋根の重量のウエイトが高いため、鉄板葺きやスレート葺き等軽い屋根を使用する方が地震に対しては有利です。

阪神・淡路大震災では、瓦葺き屋根の被害が目立ちましたが、瓦葺き屋根には他の屋根材にない、優れた点（遮音、断熱、耐久性や見ばえ等）が多く、耐風性にも優れています。

瓦葺き屋根を選ぶ場合は、瓦を下地材にしっかりとめるとともに、壁を多くし、柱や梁を瓦の重量に耐えられるように太く、強くすることが大切です。

